



お正月（インド編）

1. はじめに

新年のお祝いは、その国の文化が色濃く反映されます。特にインドは、多様な文化と異なる宗教が混在する国。一般に、インドは、東西南北に分けて語られますが、そのそれぞれに、独自のスタイルがあります。本稿では、そんなインドのお正月を紹介します。

2. 各地域のお正月

暦の上では、インドのお正月は、日本と同様に1月1日です。しかし、実際には、東西南北の各地域でお正月を祝う時期が異なります。

2.1. 東インドのお正月

東インドでは、「Poila Boishakh」が最も有名です。Poila Boishakhは、毎年4月14日に行われるお祭りで、華やかさには目を見張るものがあります。様々なイベントや正月料理を楽しめる、盛大なお祭です。

「Bohag Bihu」は、3日間続く祝賀の初日（毎年4月14日）に行われる新年を祝うお祭りです。Bohag Bihuは、ヒンドゥー教の太陽暦の元旦を意味します。Bohag Bihuは、「Cow Bihu」とも呼ばれます。その名のとおり、牛（Cow）にまつわる行事です。牛の体を清めて、ターメリックを塗りつけた後、新しい縄を付けてお祈りをします。

翌4月15日には、Bohag Bihuに続いて、「Manuh Bihu」が行われます。「Manuh」とは「人」（human）の意。人が主役の1日です。4月15日はアッサムの元旦でもあります。人々は、家を大掃除して、きれいなドレスに着替えて、近隣の友人たちと春の訪れを

祝います。そう考えると、Bohag Bihuは大晦日といったところかもしれませんね。

さらに翌4月16日には、「Gosai Bihu」が行われます。「Gosai」とは「神」の意。すべての人々が周囲を清め、豊かで幸せな新年を願います。



東インドの正月料理

2.2. 西インドのお正月

「Bestu」は、西インドの元旦のことです。この日は、グジラート州で収穫シーズンの始まりを意味し、大変な盛り上がりを見せます。宗教的かつ伝統的な儀式が行われます。Bestuを迎えると、人々は神々に参拝するために寺院を訪問します。これは、日本の初詣に近いものがあります。牛の糞や泥で作った小山がたくさんお目見えします。この小山は「Govardhan Parvat」（聖なる山）と呼ばれ、人々の崇拝の対象となります。

2.3. 南インドのお正月

南インドでは、3月に「Gudhi Padwa」と



正月飾りが施された寺院

「Ugadi」という正月祭があります。農地を清め、周囲を牛糞で埋め尽くします。各家庭の玄関前には、「Rangolis」と呼ばれる円形のデザインが描かれます。人々は新しい服に身を包み、お節料理を食べながら、「Lord Brahma」と呼ばれる神に祈りを捧げます。「Brahma」が描かれた旗が、勝利の象徴として、各家庭に掲げられます。



Ronglis

また、4月14日は、「Puthandu」という行事があります。女性は「コーラム」と呼ばれる一筆書きのパターンを描きます。「kuttuvilaku」と呼ばれるランプが、暗闇を根絶するという願いを込めて、コーラムの中央に配置されます。そして、「Kanni」と呼ばれる儀式が行われます。「Kanni」は「縁起の良い光景」を意味します。繁栄を願った人々は、宝石、果物、野菜、花、ナッツ、米等、ありとあらゆる物を捧げます。

2.4. 北インドのお正月

北インドでは、毎年4月13日に「Baisakhi」という収穫祭を行います。北インドでは多くの収穫祭が行われますが、その中でもBaisakhiは最大規模を誇ります。Baisakhiは、パンジャブ州とハリヤナ州で特に人気があります。Baisakhiには、シーク教の教祖がカーストの差を解消した日を記念する意味も込められています。人々は「Dhol」と呼ばれる太鼓のビートに合わせて踊りながら、ご馳走に舌鼓を打ちます。

カシミール地方では、「Navreh」と呼ばれる旧正月を祝います。Navrehは、ヒンドゥー暦で言うところの元旦に当たります。

ホーリー (Holi) 祭と呼ばれるヒンドゥー月の元旦を祝うお祭りも有名です。ホーリー祭では、カラフルな衣装を身に纏い、これまたカラフルな水を掛け合います。「Bhang」という北インド特有のお酒が振る舞われます。これは、お正月のお祝いに欠かせないお酒です。



カラフルにペイントした女性たち

3. むすび

このように、インドには、地域毎に多種多様な正月祭があり、その開催時期もまちまちです。インドでは、東から西へ、北から南へ、お正月が移動しているかのようです。でも家族や友人と過ごしながらか、来る新年に思いを馳せるのは、日本と全く変わりません。

著者紹介

गरमा राय (Ms. Garima Rai (ガリマ・ライ))

インド特許弁理士 (Indian Patent Agent)、Global IP India所属。

1984年ジャールカンド州生まれ。South Gujarat University卒業。専門はコンピュータ工学。2013年Indian Patent Agent試験合格。同年2月より現職。趣味は音楽を聴くこと、詩を書くこと。好きな言葉は「To expertise in whatever I do」。ファーストネーム「गरमा (ガリマ)」の意味は「誇り (pride)」。

<http://www.gip-india.in/>

編集者

木本大介 (きもと・だいすけ)

日本弁理士、GIP東京所属。1977年神奈川県生まれ。専門は通信、電気、ソフトウェア。2005年弁理士試験合格。企業知財部3年、特許事務所7年の経験を経て2013年7月より現職。

<http://www.giplaw-tokyo.co.jp/jp/>